

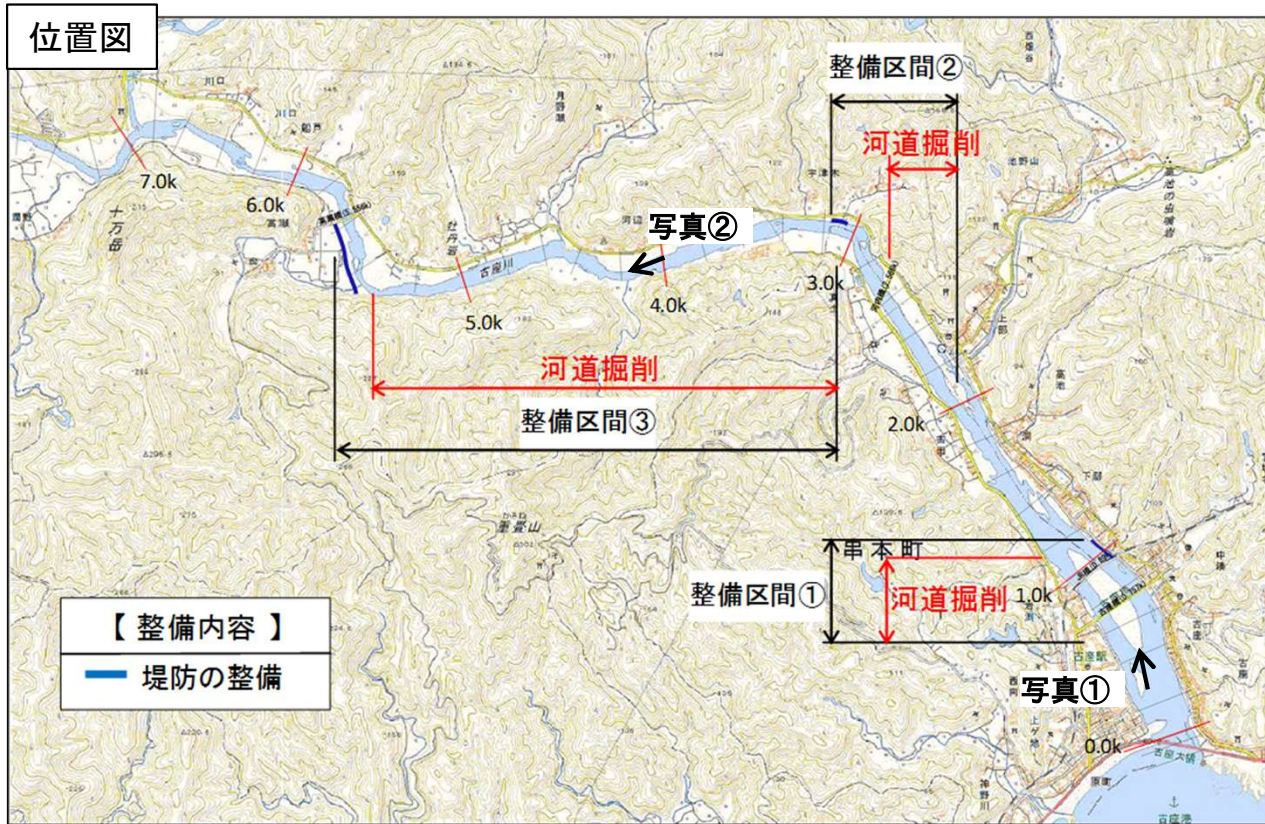
古座川流域治水プロジェクト 取組事例

① 河川改修(古座川:堤防整備、河道掘削)

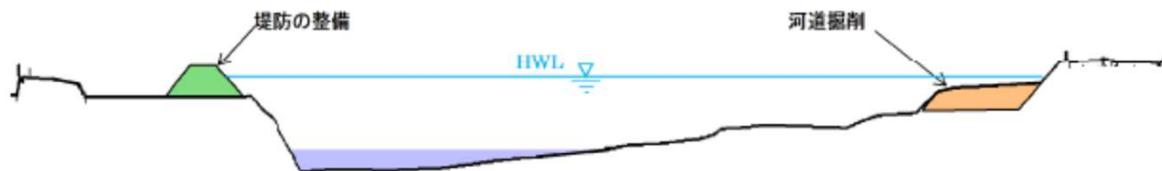
R7更新あり(写真)

和歌山県

●古座川の西向地内や高池地内では、洪水時の水位を安全に流下させるため、河道掘削を実施。



標準断面図



●古座川町では、町および民間事業者による砂利採取を実施。

○古座川町

- ①H24. 11月 約 2, 9 0 0 m³
- ②H24. 11月 約 2, 9 0 0 m³
- ③H26. 6月 約 2, 9 0 0 m³
- ④H27. 1月 約 2, 9 0 0 m³
- ⑤H27. 9月 約 1, 8 0 0 m³
- ⑥H28. 3月 約 2, 7 0 0 m³
- ⑦H29. 1月 約 2, 5 0 0 m³

○民間事業者

- ①H25. 8月 約 2, 8 0 0 m³
- ②H25. 9月 約 6, 0 0 0 m³
- ③H25. 11月 約 7, 0 0 0 m³
- ④H27. 3月 約 2, 3 0 0 m³
- ⑤H27. 7月 約 2, 9 0 0 m³
- ⑥H27. 8月 約 3, 0 0 0 m³
- ⑦H27. 12月 約 8, 0 0 0 m³
- ⑧H29. 1月 約 4, 5 0 0 m³
- ⑨H30. 11月 約 3, 0 0 0 m³
- ⑩ R6. . 3月 約 2, 3 0 0 m³
- ⑪ R7. . 3月 約 2, 9 5 0 m³

砂利採取状況



● 平井川流域である平井川ハシン谷川において砂防堰堤工を実施し、下流にある避難所、人家等を土石流から保全する。



砂防堰堤の新設



保全対象



④ 七川ダムにおける事前放流の実施

R7更新あり

和歌山県、関西電力

- 平成23年9月の紀伊半島大水害を契機に、さらにダムの空き容量を確保するため、大規模な出水が予測される場合には、本来は発電用に貯めている容量についても、河川管理者の判断により、事前に放流することができる協定を関西電力(株)と締結。

平成24年6月より、全国に先駆けて事前放流の運用を導入。

<対象ダム>

- H24より運用開始

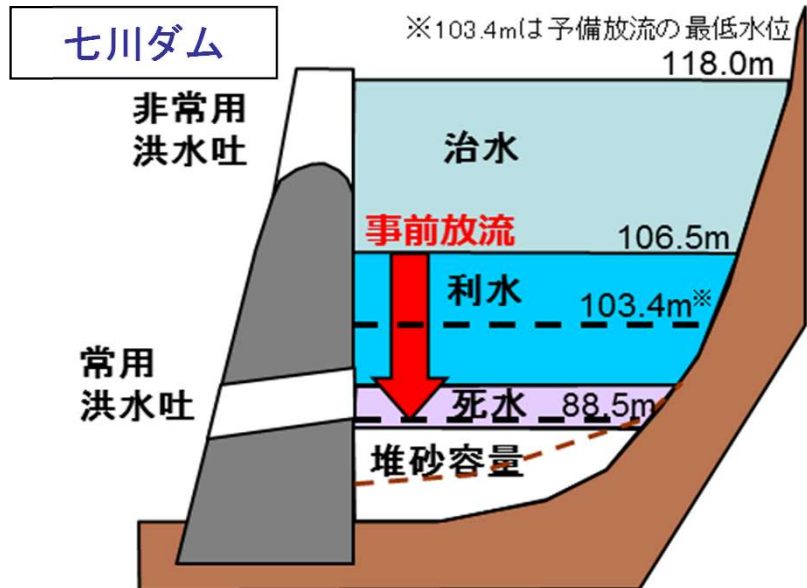
二川ダム、椿山ダム、七川ダム（以上、県管理ダム）、
殿山ダム（関西電力(株)管理ダム）

- R3より運用開始

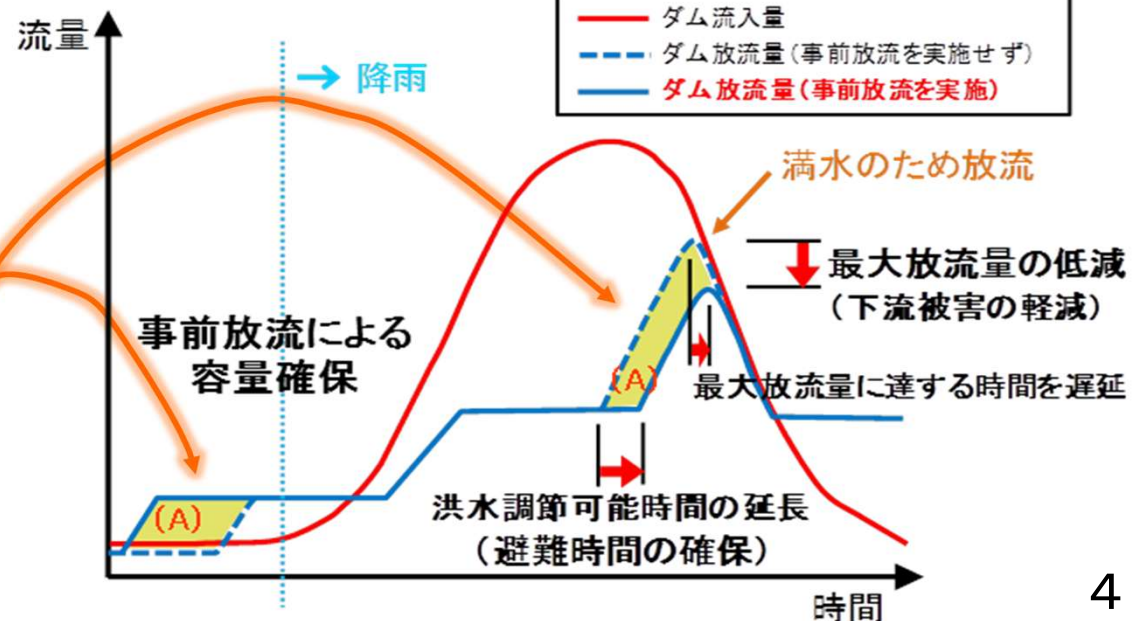
広川ダム、切目川ダム（以上、県管理ダム）、
島ノ瀬ダム（近畿農政局管轄ダム）

<これまでの実績>

計67回（二川ダム3回、広川ダム1回、椿山ダム3回、七川ダム47回、殿山ダム13回）

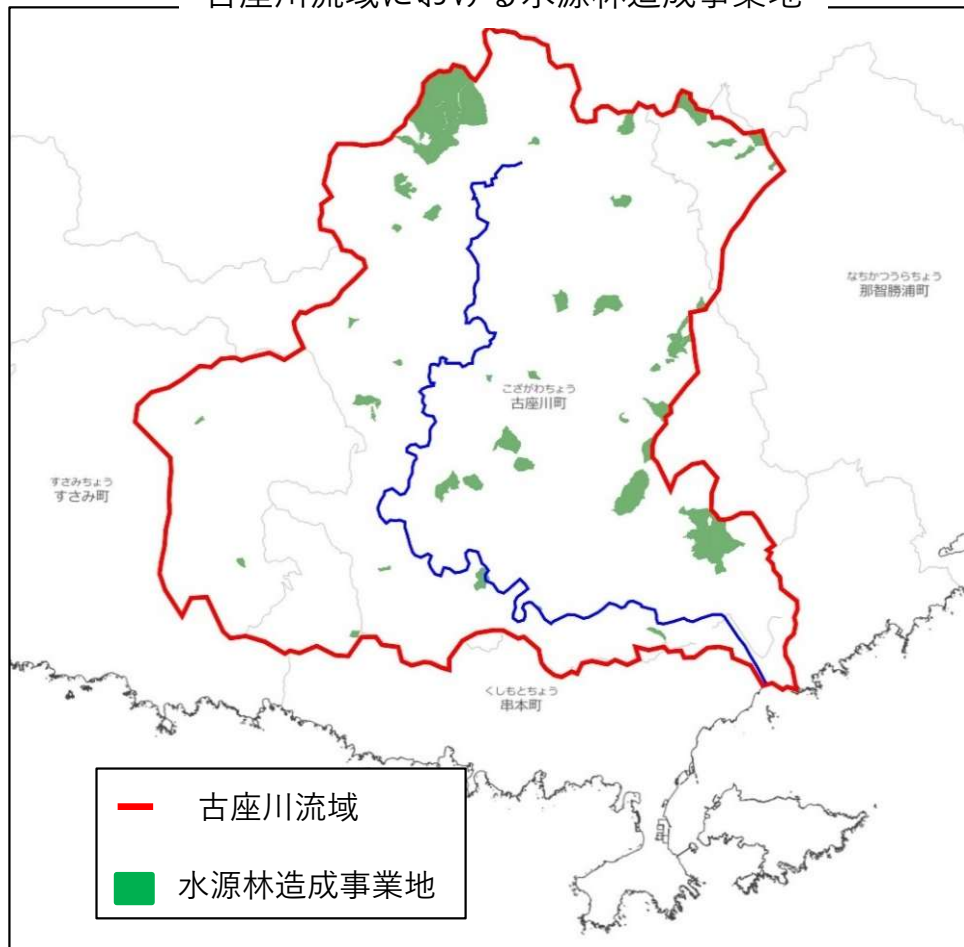


(容量配分図(洪水期)) 概念図であり、縮尺や縦横比等は異なる。



- 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業
- 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進
- 古座川流域における水源林造成事業地は、**58箇所**（森林面積 約1千9百ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施（令和7年度に約**37ha**（見込み）の森林整備を**実施**）

古座川流域における水源林造成事業地



水源林の整備



針広混交林



育成複層林

森林整備実施イメージ



間伐実施前



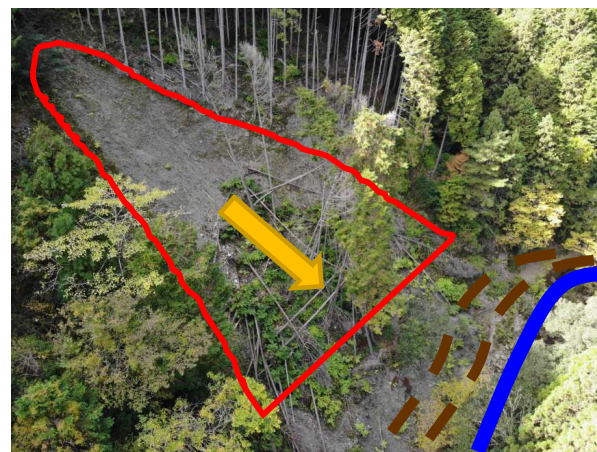
間伐実施後

●古座川町宇筒井地区で発生した山腹崩壊地において、山腹工を実施することで斜面の安定と早期に植生導入を図り、土砂や倒木の流出を防止する。

位置図



山腹工により復旧



施工前

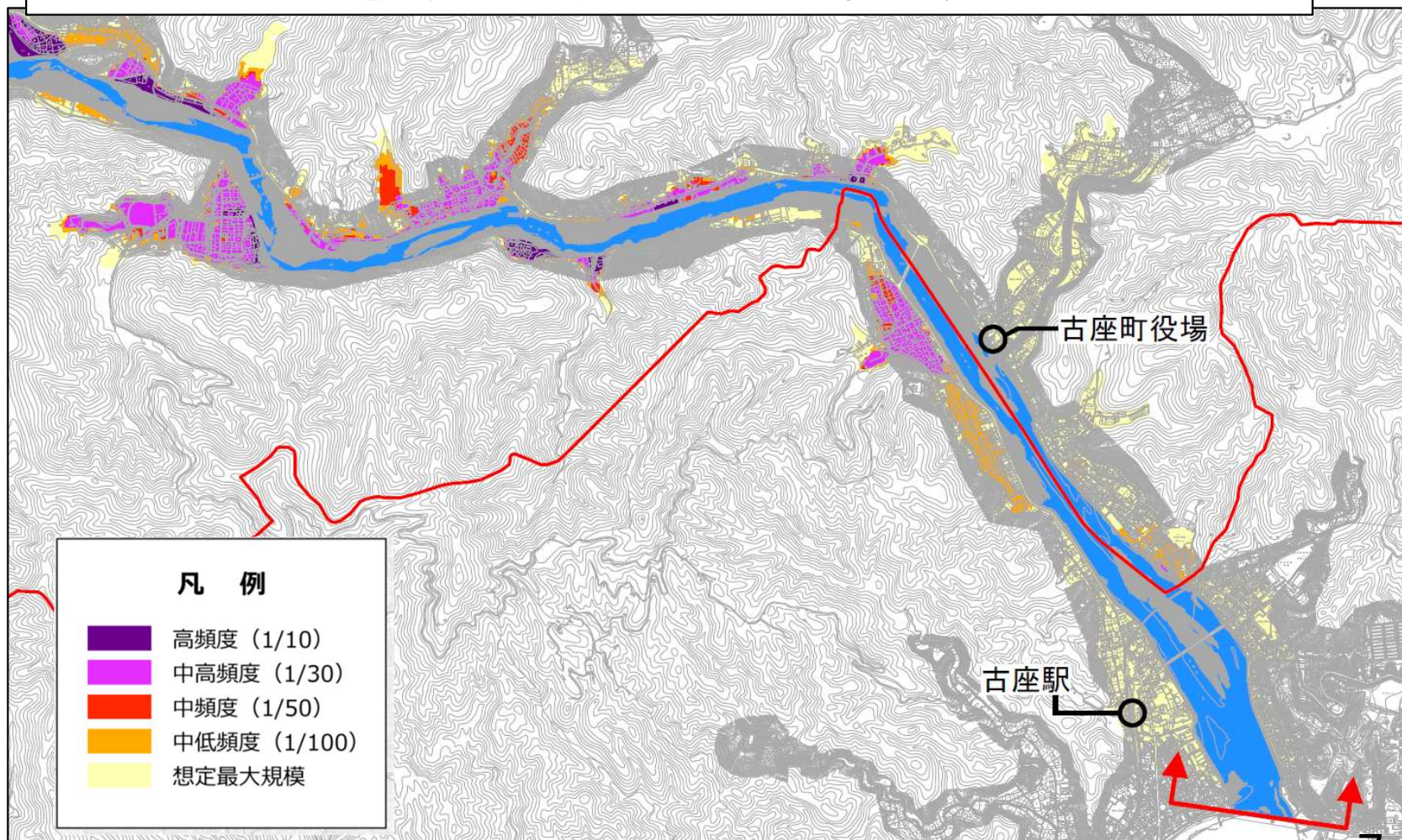


完成後

⑦ まちづくり活用のための多段階の浸水想定区域図の作成

- 従来、想定最大規模降雨の洪水で想定される浸水区域や浸水深等を表示した洪水浸水想定区域図を公表し、洪水時の円滑かつ迅速な避難確保等を促進。
- 今後は、これに加えて、多段階の浸水想定区域図を作成の上、浸水範囲と浸水頻度の関係をわかりやすく図示した「水害リスクマップ(浸水想定図)」を新たに整備し、水害リスク情報の充実を図り、水害リスクを踏まえたまちづくりの検討に活用。

古座川からの氾濫を想定した水害リスクマップ(案) 浸水深0.0m以上

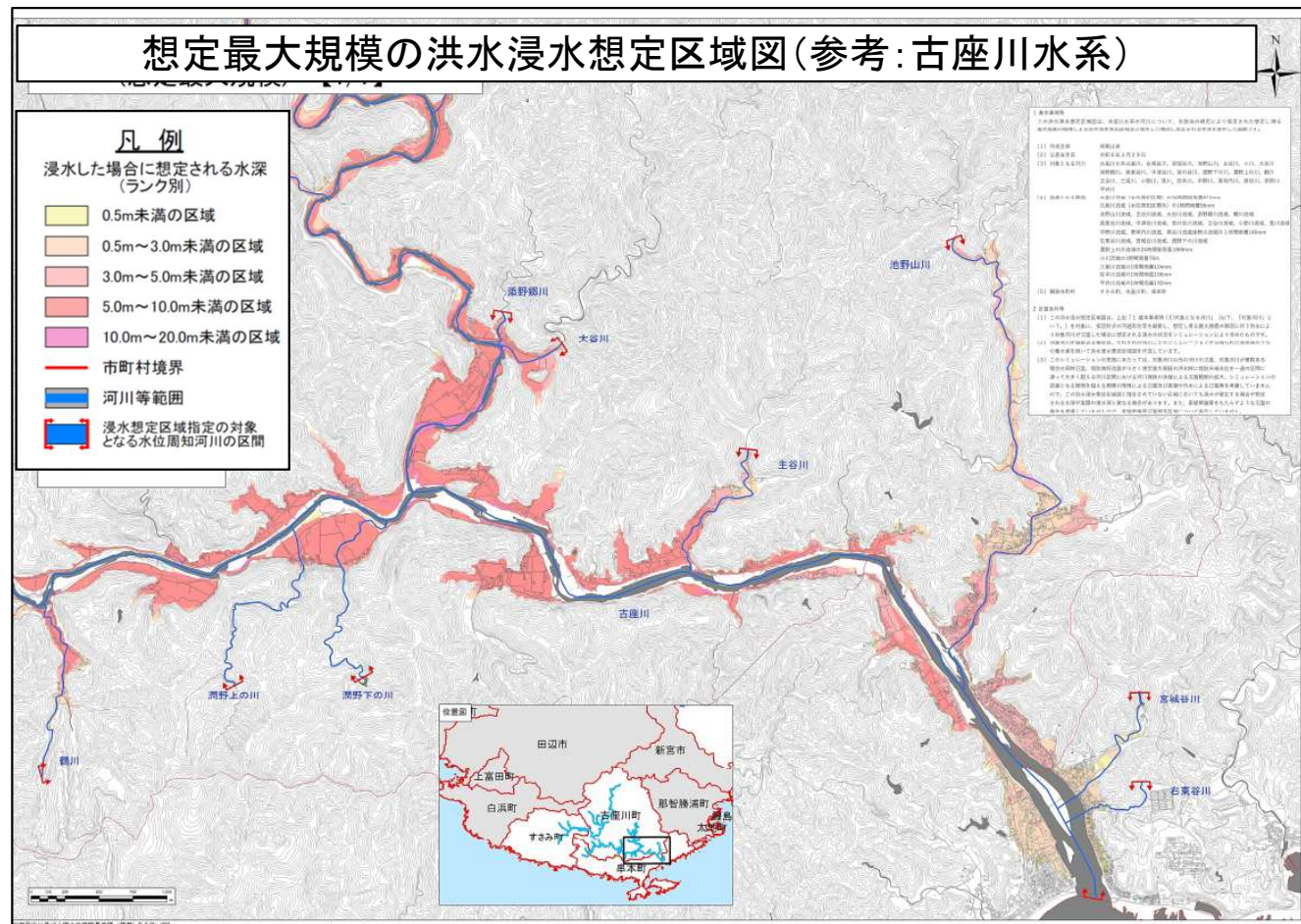


和歌山県では、古座川において多段階浸水想定区域図及び水害リスクマップを作成しました。

支川における洪水浸水想定区域図の作成

- これまでは県管理河川の洪水予報河川及び水位周知河川区間において想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図を作成し、公表していた。
- 令和3年7月の水防法改正を受け、上記区間を除く県管理河川の水害リスク情報についても明らかにし、住民の適切な避難行動を確保することを目的とし、和歌山県では県管理449河川(※)において想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図を作成し、公表した。(令和6年3月29日)

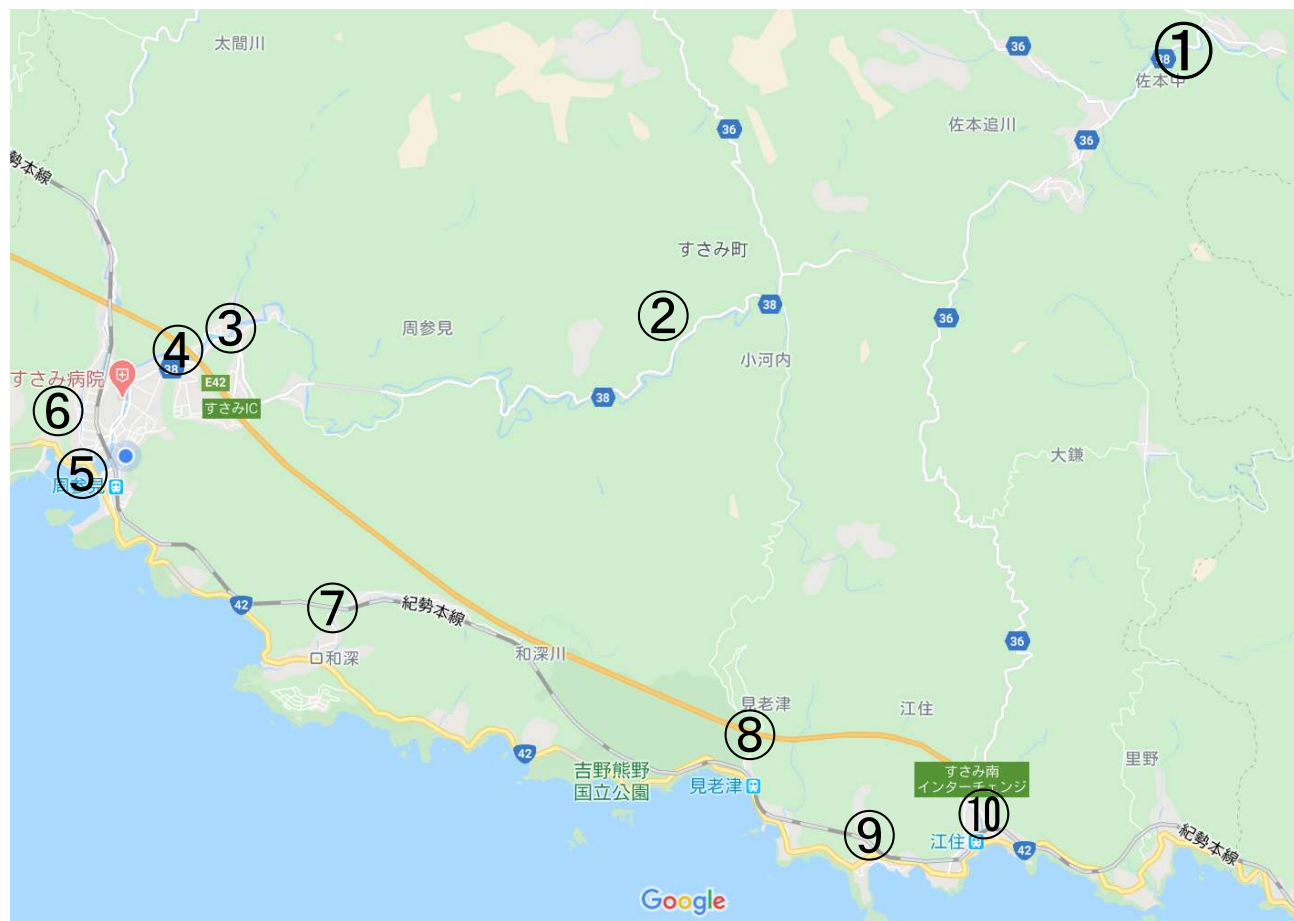
※県管理450河川のうち1河川(ぶつぶつ川)は住宅等の防護対象のない河川であり公表対象外



●すさみ町では、10箇所にて河川・海岸監視カメラを設置し、避難体制の強化させている。

①佐本中（古座川水系佐本川）

- ②上戸川（周参見川） ③沼田谷（周参見川） ④大関地（周参見川）
⑤平松（周参見川・太間川合流） ⑥曾根田橋（太間川） ⑦JR鉄橋（和深川）
⑧正葉谷川・大嶋谷川合流（見老津） ⑨江須の川河口 ⑩江住川・小郷谷川合流



- 各学校の防災教育については、児童生徒等に自らの命を守り抜くための「主体的に行動する態度」等を身に付けさせるため、学習指導要領等に基づき関連教科や特別活動など学校の教育活動全体を通じて行われている。
- 和歌山県土砂災害啓発センターでは、子ども達が「自分ごととして考え・行動できる」ことを目標に、家庭へ、更に地域へ防災意識が広がることを期待し、積極的な防災学習に取り組んでいる。また、和歌山工業高等専門学校との共同研究を含め、学習教材の開発も行っている。

防災学習の例



土石流模型装置による実験



ハザードマップ作成アプリの開発



防災RPGの開発



語り部による紀伊半島大水害体験紙芝居



プログラミングと防災学習の組合せ



AR技術を用いた防災学習砂場の開発



フィールドワーク



砂防えん堤の現場見学
(協力:国土交通省近畿地方整備局
紀伊山系砂防事務所)

和歌山県土砂災害啓発センターによる防災学習実施状況

(校)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	5	17	30	26	15	16
中学校	3	11	11	12	5	9

(和歌山県内外の学校を含む)

● 梅雨期及び台風期における防災態勢を強化

○ 状況に応じた対応の徹底について

- ・ 「和歌山地方気象台からの気象の見通し」や「JR等の計画運休」などの情報の収集を徹底
- ・ 気象警報発表の有無に関わらず、登校が困難な状況が予測される場合、校長が臨時休業や自宅待機等の判断を柔軟に行う

○ 下校判断の例



この下校判断の例は児童・生徒が登校後の午前11時過ぎに大雨警報や暴風警報が発表された場合のひとつの考え方として示しています。

由良町の警報・注意報 (今後の推移)

		20●●年●月3日11時26分発表								備考・ 関連する現象	
由良町		3日				4日					
		09-12	12-15	15-18	18-21	21-24	00-03	03-06	06-09	09-12	
大雨 (土砂災害)	陸上	20 ▲	20 ▲	18 ▲	18 ▶	17 ▶	15 ▲	12 ▶	12 ▶		大雨警報(土砂災害)は18時までを対象としている
	海上	25 ▲	25 ▲	23 ▲	23 ▶	20 ▶	18 ▲				
波浪		5	5	4	4	4	3	3	3	3	以降も注意報級うねり

この例では暴風警報は15時までに、土砂災害を対象とした大雨警報は18時までに解除見込みであることが分かります。➡ 学校待機とし、警報が解除されてから下校させる対応が考えられます。

● 和歌山県防災リーダー研修会の実施

○ 趣旨

災害時に児童生徒等を守るための知識・技能、判断力及び行動力を身につけるとともに、各学校の実態や地域の災害リスクを踏まえた実践的な防災教育に取り組むことができる能力を養う。

○ 今年度の研修内容等

日時：令和7年5月28日（水）

研修内容：「土砂災害ってどう教えていますか？」

講師：（県）土砂災害啓発センター 岐山 雄亮 氏



●串本町では、令和元年度に、台風の接近により、町内河川の水位上昇が見込まれる場合等に備え、住民等に対する避難に関する情報伝達や、それに合わせた対応についてタイムラインを策定。

台風大雨接近に伴う防災行動計画

令和3年7月

	想定日時 (上陸等の)	◇総括 総務課	◇避難所設営 福祉課・ こども未来課	◇物資準備 住民課・会計課	◇情報提供 企画課	◇道路・施設管理 建設課・水道課 産業課・教育課	◇被害調査 税務課
台風上陸 の可能性	3日前 台風予報・ 気象台情報	○配備体制の検討 ・各課に配備体制連絡 ・関係機関と情報共有	○避難所の開設準備 ・各区長に事前連絡 ・各課に開設の依頼	○避難所物資準備 (毛布・食料・避難者名 簿・ヘルメット・ライト等)	○メディア対応 ・ホームページ更新	○所管施設へ連絡 ・土のう等の確認	○調査準備 ・調査用具の確認 ・調査体制の調整
災害発生 の可能性	1日前	◇大雨・暴風警報等 ○高齢者等避難発令 ・防災行政無線放送 ・県防災情報システム	○避難所開設 ・開設時間を調整 ・職員派遣を調整 ・要配慮者の対応	○物資配布 ・避難所物資配布 ・職員に運搬依頼	○情報収集、発表 ・道路通行止め ・公共交通機関等	○道路冠水等確認	○避難所開設 ○物資配布 ※他課への協力
台風接近	半日前	◇土砂災害警戒情報 ◇氾濫危険情報等 ○避難指示発令 ・気象台に状況確認 ・消防、警察等と情報 共有	○避難を完了させる ・避難状況の報告 ・交代要員の調整	↓	○情報収集、発表 ・道路通行止め ・公共交通機関等 ・避難所開設状況	○土のう等対応 ・氾濫危険個所に バリケードや 土のう等を設置	↓
台風上陸	0時間	◇氾濫発生情報等 ・関西電力に状況確認 ・気象台に状況確認	○避難状況の把握	○配布状況の把握	↓	○被害状況の把握	○被害状況の把握
警報解除	半日～ 1日後	○被害調査まとめ ・防災行政無線放送 ・県防災情報システム	○避難所閉鎖 ・避難状況報告 ※被害程度により 災害見舞金等	○物資回収 ・使用物資の報告 ・義援金等の分配 ・災害廃棄物処理	○情報収集、発表 ※被害程度により ボランティアセンターの 設置を検討	○被害調査(施設) ・所管施設等の 被害調査報告	○被害調査(町内) ・左記以外の町内 被害調査報告 ※被害により住家 被害調査実施

●串本町では、令和6年3月に発表された想定最大規模の洪水浸水想定区域図に基づき、近年の大雨や短時間強雨の発生頻度の増加等を考慮し、令和6年度に洪水・土砂災害ハザードマップを作成しました。

串本町の全体図を13分割し、町内の28河川を掲載
 ・掲載の対象は、令和6年3月29日に洪水浸水想定区域図が公表された串本町内の和歌山県管理の28河川。

避難施設の種類、気象情報の用語の説明文の掲載
 ・指定緊急避難場所、指定避難所、福祉避難所の違い

- ・キキクル、土砂災害警戒情報などの用語の説明
- ・土砂災害の種類について(地すべり、土石流など)

防災情報の入手と緊急連絡先の掲載

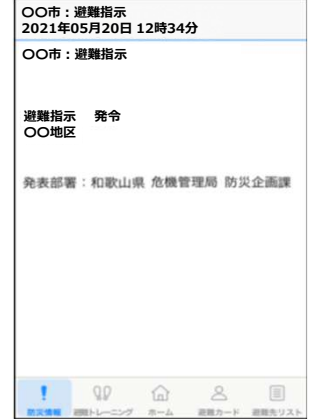
- ・気象庁や和歌山県 防災わかやまなどのURL、QRコードをまとめたものを掲載。
- ・役場、消防、警察、病院などの緊急連絡先の掲載。

1 避難先検索

- ・災害時や、災害のおそれがあるときに安全に避難するための避難先を簡単に検索できる。
- ・避難場所の安全レベルも確認でき、最短ルートを地図上に表示。
- ・避難途中にルートを変更した場合も現在地を常に表示して、正しいルートに誘導
- ・土地勘のない場所でも的確に避難できるよう、避難場所等の方向を地図情報とカメラで確認できる。(AR(拡張現実)を活用)



【安全レベル確認】



【プッシュ通知】

2 防災情報のプッシュ通知

- ・事前の登録なしで、気象警報・注意報や避難情報等の防災情報がプッシュ型で届く。
- ・さらに、一時避難場所から別の市町村に移動しても、その市町村に発令されている避難情報等がプッシュ型で届く。

3 家族等の避難した場所の確認

- ・家族等でグループ登録すれば、**散り散りに**避難した登録者の居場所を地図上で確認できる。
- ・また、避難カードの作成・共有ができる。



【家族の居場所確認】



【トレーニング結果表示】

4 避難トレーニング

- ・自宅等から避難場所まで実際に避難のトレーニングをすることで、その避難経路や要した時間が記録できる。
- ・さらに、トレーニング記録に南海トラフ巨大地震の津波の到達時間等の想定を重ねることで避難行動の安全性を確認できる。

5 河川水位や土砂災害危険度情報の表示

- ・河川水位情報や土砂災害危険度情報などをリアルタイムで表示



【河川水位、河川カメラ】



【土砂災害危険度情報】

6 防災備蓄計算

- ・人数構成と備蓄日数を入力することで、災害時に必要な備蓄品目、数量を計算できる。

*アプリは、無料でご利用いただけます。

(アプリのダウンロード・ご利用にかかる通信料は、利用者のご負担となります。)

右記の二次元コードからスマートフォンにダウンロードできます

◆お問い合わせ先 和歌山県危機管理部防災企画課 電話073-441-2264



ダウンロード数

92,467件

(R7.8末時点)